

[07\_1] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :  
7(1)

<https://doi.org/10.15017/18255>

---

出版情報 : 図書館情報. 7 (1), pp.1-8, 1971-01-25. 九州大学附属図書館  
バージョン :  
権利関係 :

— 年頭所感 —

## 大学改革と大学図書館

高木 暢 哉

ことしはどうやら、大学改革問題の年にもなりそうである。中教審の『高等教育の改革に関する基本構想』(中間報告)が公にされたのは、昨年5月のことであった。これに対して、国大協第一常置委員会では、昨年11月、この「基本構想」を検討した未定稿の「見解」を各国立大学に回わして、現在その意見を求めている最中である。やがて国大協としての正式見解が、公にされる段取りとなるであろう。

大学図書館の在り方については、昨年の6月にすでに、「大学の研究・教育にたいする図書館の在り方とその改革について」なるものが、その図書館特別委員会の手によって公表済みである。これまでの日本の大学の教育および研究において、とかくないがしろにされがちであった図書館問題が、そのために特別に設けられた国大協における一委員会で取り上げられ、検討され、いちおうの成果に達したことは、画期的なことといえよう。その内容は、大学図書館の組織や管理、研究や教育に対するその使命や役割、情報処理や機械化、設備や予算などの問題にまでわたり、今日的狀況をふまえて、精細であり、かつ精到な報告書となっている。それについての細かい紹介をしたいところであるが、ここではそれだけの余裕がない。

わたくしは、大学改革との関連において、1, 2 の提言をしてみたい。既述の中教審の中間報告「基本構想」においても、それに対しての国大協の「見解」にしても、大学図書館問題には触られていない。それは当然なのかも知れない。とくに国大協の場合には、すでにその図書館常置委員会において大学図書館問題についての見解は公表済みであるので、そのうえに必要なということでもあろう。しかし問題を、大学改革という視点に移してみるならば、そういう独自の視座からみられる大学図書館問題といったものが、浮かび上がってくるように思われる。

わたくしは国大協の「見解」に接したときに、なんということなしに不満を感じた。第一は、ほかでもない。現在の大学図書館には、「大学改革問題」以前の問題点や不充足さが山積している。この不充足さに目をつぶり、素通りして、大学改革を論ずることでのよいのであろうか、意味があるのだろうか。なんとかしなければならぬことが、山ほどある。われわれは実際にイライラしている。このイライラは、どうなるのであろうか。これら「大学改革」以前の諸問題が解決されることを望んでいるのが、実はわれわれに当面するもっとも切実な問題なのだ。例えば、現行の新制大学の構想によれば、1時間の講義に2時間の自習という立前になっている。そんなことが現実に行なわれているのであろうか。自習などできる十分な設備が整えられていない。図書や資料が整備されていない。かりにあって、利用できるような仕組が整っていない。一般教養課程が重視されているのに、それを実行する設備や組織ができていないから、学生はこれを当てにしなくなる。いきおい、大学における一般教養のごときは止めてしまえという極端な改革論さえできるようになる。講義だけの教育になる。学生は大学の外に目をむける。そこには便利なメディアや解説書や情報がいくらでもある。快適な経験が商品として無数に販売されているから、それによって一般教養課程の代わりを満す。しかも大学の講義には脊をむける。大学が大学らしい仕方では、一般教養にしる、基礎科目にしる、専門教育にしる、充分に尽していないからである。

図書館問題に立ち返っているとすれば、大学図書館の施設や仕組や運営が、今日の大学教育の現状からすれば、非常な立ち遅れを示している。大学の外部で進行している社会の発展や変化に対しても、大学図書館が非常な立ち遅れをしているために、魅力のないものになってゆくのである。学習ということについては、大学図書館は学生の学習にとって、社会の他のどの場所よりも便利で快適で自由で、したがってもっとも能率的で有用な場所であればならない。文科系の学問の場

合には、図書や資料の設備は理科系にとっての実験設備のようなものであるから、学習にしても研究にしても、本来はそうした図書や資料の設備を中心にして展開されるべきものなのである。図書館は、いってみれば学習や研究にとっての装置である。学生や研究者は、これを自身の学習や研究のための手段として利用する。これは理科系の学生や研究者にとっても、同様のことがいえると思う。大学図書館は、そういった意味で、大学の教育・研究にとっての共用の広場、しかもそこから、教養にしる、基礎教育にしる、専門教育にしる、研究にしる、一切が生まれ出る共用の手段・施設、したがって大学における教育・研究の中心的存在でなければならないのだが、それが現実には少しも出来ていないから、学生はイライラするし、教官もあきらめて、図書館問題の重要性から目を離すようになったのである。

これが現状にたいするわたくしの不満であるが、これを大学改革との関連でいえば、改革される方向での大学のヴィジョンは、いまいったような大学図書館の本来の在り方をしっかりとふまえたものでないと、いけないと思う。講座制を改廃するとか、学科制を考慮するとか、総合的一般講座を設けるとか、境界領域科目を重視するとか、などといったことが問題とされているのであるが、そういったことがらは、実は初めから大学図書館の機能にかかりあいを持ち、かつ含まれている。大学図書館では、図書や資料の分類や配置ということがおのずから問題とされるが、これに学部や学科などの分け方や配置がそのまま持ちこまれてもするならば、総合的・大学の機能は果されない。大学図書館のこの部屋は、この学部専用のものだとか、あるいは図書や資料の分類や配置が各部局ごとの分類や講座ごとの配列にならなくてはならない。全学のどのような研究者のどのような目的に対しても、平等に公平に、接近が容易なシステムになっていなければならない。学部や学科や講座などの枠を越え、境界領域科目に容易に踏みこむことのできる図書や資料の便宜を提供するものが、大学図書館である。一般教養や基礎教育などの便宜を総合的に体系的に提供できるのは、特定の部局や学科や講座や専門から離れている大学図書館のみが提供しうる便宜である。この便宜を、大学図書館は大学人に広く提供したいと思う。この便宜の施設を、広く大学人に利用してもらいたいと願う。大学図書館としては、本来そういう図書館・情報のセンターになるのでないと、いけない。

この意味では、「大学改革」などの言葉で論じられ主張されている論点のいくつかは、現実の大学図書館が、果さねばならぬ諸機能のうちに見出せる。この大学図書館の在るべき姿・望ましい働きが素通りにされて、しかも現実にはそこまでは実現されていない現在の大学図書館において山積する不充足さに目を注ぐことなく、ただ大学の諸制度をどのように改革すればよいかなどが論じられるという形になっていて、わたくしには不満であった。精神が一本通っていない、生命のない改革論争は、空語のように思えて仕方ない。(1971. 1. 22)

(たかぎ・のぶや：図書館長)

## 学内マイク

### 図書館関係図書巡回展 (中央図書館)

アメリカ文化センターが、全国各地で巡回開催中の図書館関係図書展示会を、福岡アメリカ文化センターの好意により、中央図書館参考図書室において、昭和46年1月11日(月)から14日(木)まで開催された。展示内容は、アメリカで最近出版された図書館およびドキュメンテーション関係図書約120点で、学内図書系職員をはじめ、他大学の図書館関係者の参観者も多く盛会であった。

### 土曜日の開館時間および定例休館日の変更について (中央図書館)

中央図書館では、試験期間中、土曜日の開館時間を次のように変更いたします。

1. 期日 2月13, 20, 27日  
3月6, 13日
  2. 時間 参考図書室 9~17時  
指定・雑誌・一般閲覧室 9~21時
- なお、3月1日の定例休館日は、3月22日(月)に変更します。

利用の手引き

**WILSON COMPANY INDEXES**

川 上 繁 治

The H. W. Wilson Company (New York) は、Halsey W. Wilson (1865—1954) により 1898年にミネアポリスに創立され、以来世界最大の索引類及び図書館用参考書類の出版社として今日に至っています。

同社から出版された多数の2次資料は、それぞれに、すべての図書館の基本的なレファレンス・ツールとして活用されていますが、米国などの普及度に比して、意外に我国での利用が少ないように思われます。

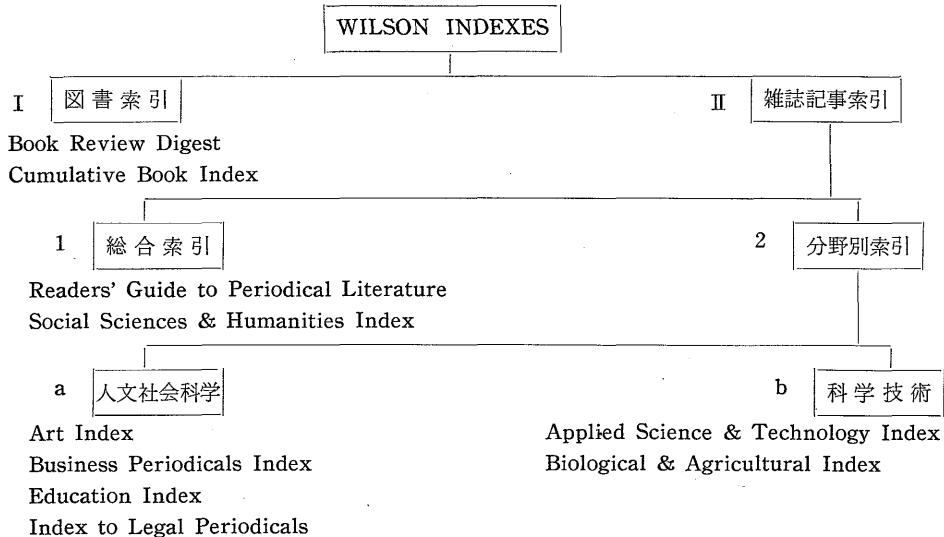
特にこれから紹介しようとする Wilson Indexes と総称される一群の資料は、我国の大学図書館及び研究者にとっても重要な検索ツールであり、一層の普及が望まれるものです。

Wilson Indexes は 1 図書索引と 2 雑誌記事索引に大別され、

- 1 は Book Review Digest と Cumulative Book Index の2部に分かれ、  
 2 は ㉑ 総合的なものと ㉒ 分野別のものに分かれています。  
 ㉑ には Readers' Guide to Periodical Literature と Social Sciences & Humanities Index とがあり。  
 ㉒ は更に ㉓ 人文・社会科学と ㉔ 科学技術とに分けることができます。  
 ㉓ には Art, Index, Business Periodicals Index, Education Index, Index to Legal Periodicals があり、  
 ㉔ には Applied Science & Technology Index と Biological & Agricultural Index があります。

その他 Bibliographic Index, Biography Index, Essay and General Literature Index 等がありますが、今回は説明を省略させていただきます。

以上述べた事を図示すれば次のようになります。



それぞれの資料について概説すれば、

**1 図書索引**

Book Review Digest (1905—) 70種以上の雑誌類に掲載された新刊書の書評を要約して、年間5,000点以上紹介している。著者名、書名、件名のいずれからでも検索できる。ただし対象は米国で出版または販売されているものに限られる。

Cumulative Book Index (1898—) 全世界で出版される（政府刊行物、パンフレットを除く）

英語版新刊書の索引で、著者名・編者名・書名・件名により検索できる。

## 2 雑誌記事索引

### ① 総合索引

Readers' Guide to Periodical Literature (1900—) 米国の一般雑誌約 160 種の 記事索引・著者名と件名により検索できる。

Social Sciences & Humanities Index (1965—) 人文社会科学系学部に通して利用価値のある索引で、哲学・文学・歴史・政治・経済その他の分野にわたる学術的な雑誌類 200 種以上の掲載論文を著者名・件名により検索できる。

### ② 分野別索引 ③ 人文社会科学

Art Index (1929—) 150種以上の美術関係雑誌の記事索引

Business Periodicals Index (1958—) 約 170 種の経済・商業関係雑誌の記事索引

Education Index (1929—) 約 240 種の教育関係雑誌の記事索引

Index to Legal Periodicals(1908—) 300種以上の法律関係雑誌の記事索引。各号とも、件名と著者名・判例一覧および書評の 3 部分に分かれている。

### ④ 科学技術

Applied Science & Technology Index (1958—) 航空・物理・化学・電気・機械工学・土木・食品化学その他応用科学と技術一般の雑誌 220 種以上の記事索引。

Biological & Agricultural Index(1964—) 農芸化学・農業経済・畜産・土壌・林業・その他の農学関係雑誌約 150 種の記事索引。

すべての索引を利用する場合に共通することではありますが、Wilson Indexes の件名索引の場合も、適切な用語の発見が検索の重要な鍵になります。

例えば Readers' Guide to Periodical Literature で『公害問題』をとらえた場合

“Pollution” の項を見ると see also

Air Pollution	となり
Soil Pollution	
Space Pollution	
Water Pollution	

“Environmental Pollution” では see Pollution となる。

“Air Pollution” は更に see also

Automobile engines-exhaust	,
Plants, effect of air pollution on	
Plants, effect of ozone on	

“Water Pollution” は更に see also

Detergent pollution of rivers, lakes, etc.	と続き
Oil pollution of rivers, harbors, etc.	
Sea water-pollution	
Sewerage,etc.	

『公害問題』に関連性のある項目が芋蔓式に出てきます。このようにして、広範囲の記事の所在がわかるわけです。

⑤ Agricultural Index (1916—1964) は 1964 年 10 月から Biological & Agricultural Index に改題された。

Industrial Arts Index (1913—1957) は 1958 年 1 月から Applied Science & Technology Index と Business Periodicals Index に分けられた。

International Index (1920—1965) は米国図書館協会ウィルソン・インデックス委員会の提案により 1965 年 6 月から Social Sciences & Humanities Index に改題された。

## 参 考 文 献

### 1. John Lawler

The H. W. Wilson Company, half a century of bibliographic publishing. Univ. of Minnesota Press, c1950. 207p.

### 2. William A. Katz

Introduction to Reference Work: Vol. 1, Basic Information Sources. McGraw-Hill Book Company, c1969. 376p.

### 3. 1970 Wilson Publications

The. H. W. Wilson Company, 1970. 30p.

(かわかみ・しげはる：福岡アメリカ文化センター司書)

## 学内図書館めぐり

### 農学部図書室 (その3)

よりよき図書館とは、次のような条件を備えたものと考えてよいと思われる。①所蔵資料の質と量 ②完備された施設(閲覧室、書庫、管理部門) ③職員の質と数。勿論、規模と機能に比例していることではあるが……。

最近10年間の歴史を振り返ってみると、図書委員会を中心に一貫して上記の三項目の改善に努力が傾けられてきたようである。“農学部図書館のあり方”についても図書委員会と教授会において集中管理方式を確認し、少しでもその線に沿うための管理運用上の改善案(内部施設の改善)が何回となく提案審議され、基本的にその改善案が承認されはしたが、実行に移すことは施設狭隘のため容易でなかった。

現在農学部図書行政最大の隘路となっているものは、前記の②の施設の改善が十分に行われていないことに尽きるといってもよい。だがその間に徐々に改善された事項も少なくない。

主な事蹟を列記すると次のようになる。

昭和38年1月1日 掛長交替, 当時7人(中図3, 農化2, 農学2)と絶対的な人員不足も現在ではようやく14人に強化されるに至った。その人員配置は次の通りである。

掛長	1	} 年間受入数 5,000~6,000 冊
受入(和・洋書)	1	
目録(和書)	2	
目録(洋書)	2	
雑誌担当	2	} 受入種類数約 2,500 と紀要発送事務
閲覧	2	
文献複写	2	} 1は農化専任, 1は農学部共通
再整理	1	
作業員	1	} ゼロックス月間 15,000~20,000 コピー, オフセット印刷など

昭和38年4月2日 図書原簿など用度掛より移管引継ぐ。

昭和38年7月12日 現在の複写室(6坪)にあった事務室が現事務室へ移転(15坪)(50回図書委員会承認)

昭和38年10月24日 事務室移転に伴い旧事務室にコニファックス複写機(M・Fリーダープリンター)およびM・F撮影装置設置

昭和39年 それまで用度掛で事務取扱をしていた購入雑誌は図書掛へ、また目録カードの作成についての不統一(記入上の)は正のため中図で一括作成することになった。

但し基本カードのみ、複製は今までどおり各図書室(農化・農学・農学部中図)の分担制。

昭和39年11月 2階閲覧室は昆虫標本室となる。

昭和40年1月14日 九州大学農学部雑誌目録欧文篇作成。これによって以後受入雑誌速報の発刊中止。

昭和41年6月1日 ゼロックスによる複写業務開始。

昭和41年6月3日 林学書庫蔵書移転完了。

昭和42年1月 九州大学農学部雑誌目録和文篇作成。

昭和42年1月 3階の農学系職員が農学部中央図書室に統合される。

昭和44年9月1日 掛長交替。

昭和44年11月 学部共通の参考図書として、Chemical Abstracts, Biological Abstractsの半額農学部中央図書室経費支出決定、中央図書室の参考図書室に常置される。

昭和45年1月28日 第70回図書委員会に再整理を含めての図書の分類換えについて審議され、NDC採用が確認された。

これによって一応農学部の図書整理業務は合理化、標準化され、この作業が完成されると真の意味の情報管理と検索の機能を果たすための体制が一步進んだことになる。

なお、再整理の問題について説明すると、今まで検索の手段として和書は書名目録、著者名目録、洋書は著者名目録のみで、しかもシリーズ名、或はシリーズで基本カードを作った場合内容の副出、分出もなされてない。

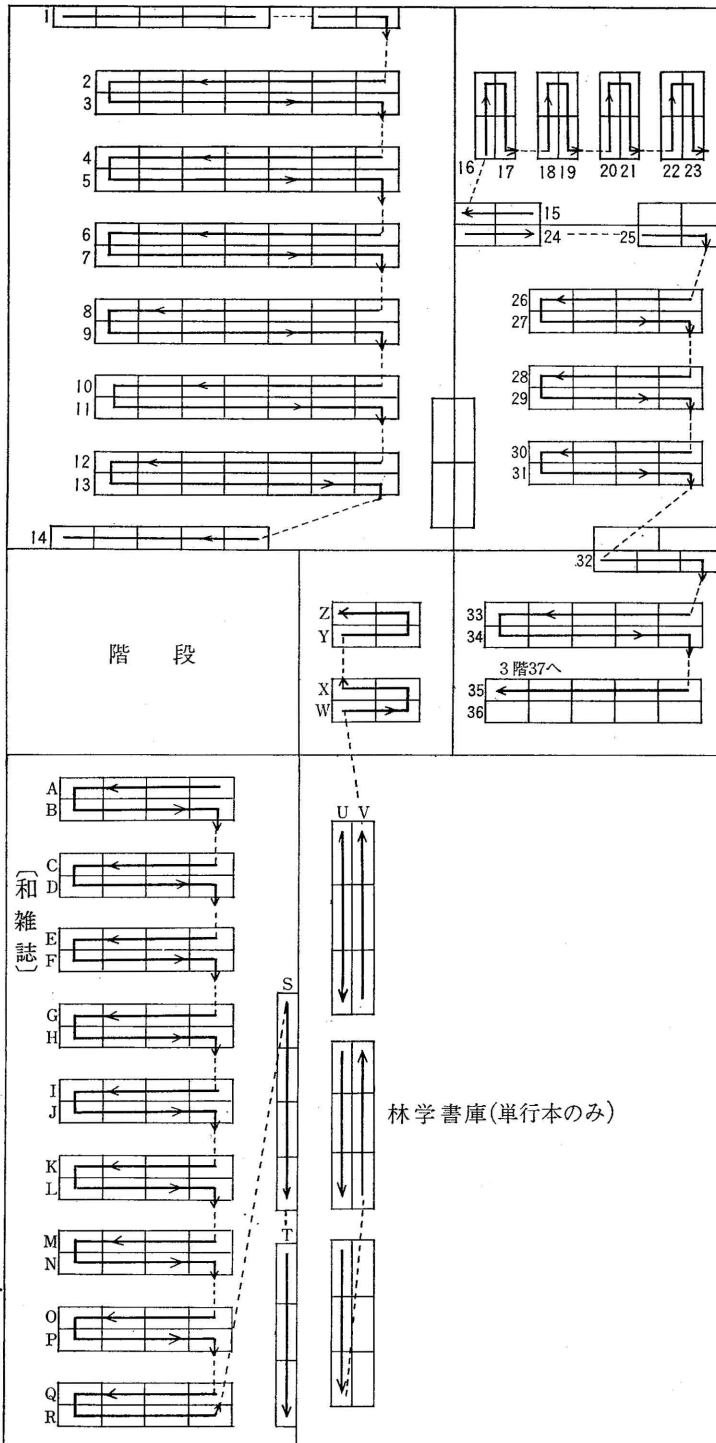
また和書の著者名目録については訳本の原著者、二人以上の共著者などの図書は一人のみのカードだけといった実状は正と内容出題からの検索手段としての分類目録作成をねらい、今後約6~7年にて戦後出版された受入図書約100,000冊を目標としている。そのための要員として1名本年度より増員することになったが、勿論1人だけで出来るものではなく、掛員全員が日常業務と併行して多忙な業務を進めている。(確認事項として分類記号のケタ数は最高5、著者記号と書名のInitialとの組合せによる請求記号を作る)更に懸案の和洋雑誌の一元配架(誌名のアルファベット順、和書はアイウエオ順)も同時承認され、このたび作業を完了した。(別図参照)

(ひらかわ・ともよし:農学部図書掛長) 一回は、薬学部図書室です—

所蔵雑誌排架図 2階

〔洋雑誌〕

- 1. A ~ Ame
- 2. Ame ~ Ame
- 3. Ana ~ Ann
- 4. Ann ~ Ann
- 5. Ann ~ Ap
- 6. Ara ~ Ars
- 7. Ast ~ Ber
- 8. Ber ~ Bla
- 9. Bla ~ Bri
- 10. Bul ~
- 11. Bul ~ C
- 12. C ~ Cb
- 13. Ch ~ D
- 14. E ~ Ene
- 15. Engi ~
- 16. Ent ~
- 17. Ento ~
- 18. Ex ~
- 19. F
- 20. F
- 21. F
- 22.
- 23.
- 24. G ~
- 25. G ~ Her
- 26. Her ~ Hu
- 27. I ~ Isr
- 28. J ~ Jap
- 29. Journal ~ ant
- 30. Journal ~ ent
- 31. Journal ~ for
- 32.
- 33. Journal ~ mor
- 34. Journal ~ Jus
- 35. K ~ L
- 36.

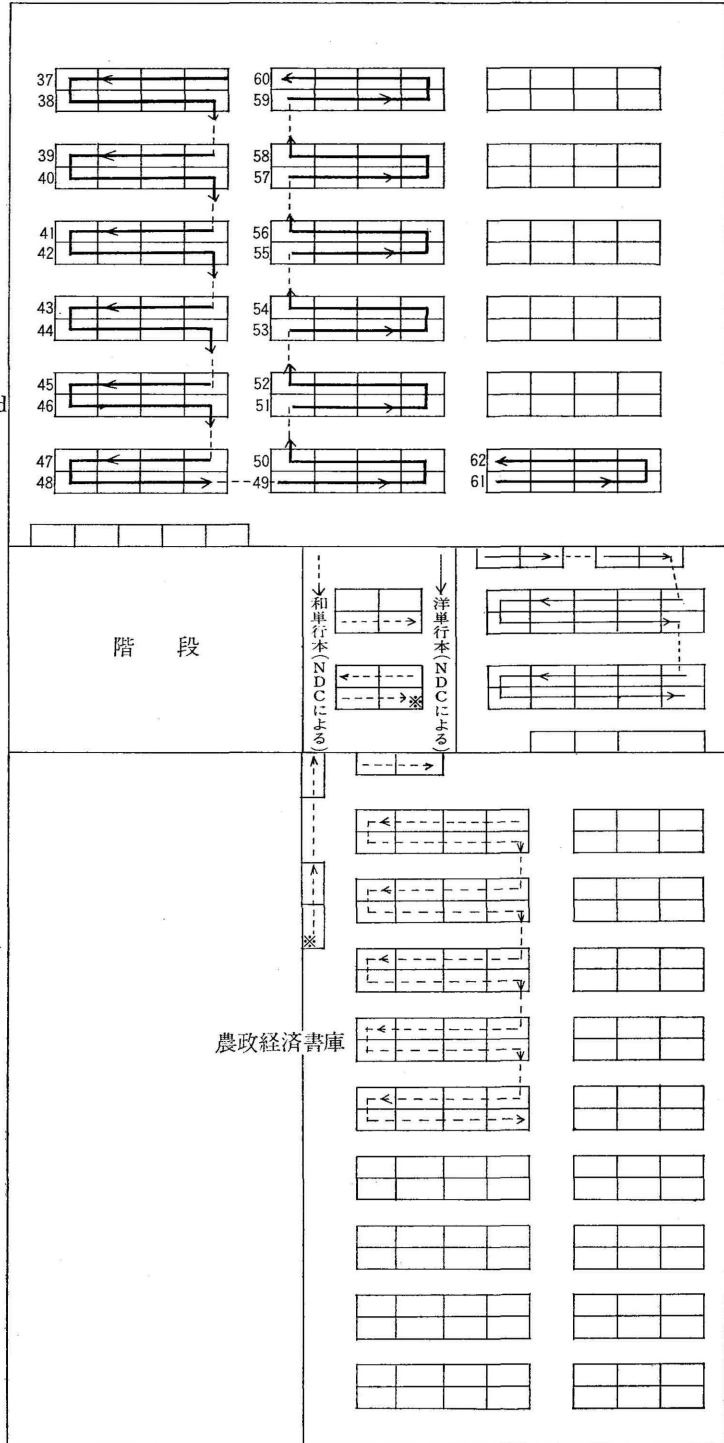


〔和雑誌〕

- A. ア ~ イ
- B. イ ~ オ
- C. オ ~ カ
- D. カ
- E. カ ~ キョ
- F. キョ ~ ケ
- G. ケ ~ コ
- H. コ ~ サ
- I. サ ~ シ
- J. シ ~ ショ
- K. ショ ~ セ
- L. ソ ~ タ
- M. タ ~ チュウ
- N. チョウ ~ ト
- O. ト
- P. ト
- Q. ト
- R. ナ
- S. ニ ~ ノ
- T. ノ
- U. ノ ~ ハ
- V. ハ行
- W. )
- X. )
- Y. )
- Z. ワ

所蔵の図書及び雑誌排架図 3階

- 37. M ~ Mem
- 38. Met ~ Mon
- 39. Mon ~ Nat
- 40. Nature ~
- 41. O ~ Phi
- 42. Phi ~ Phy
- 43. Phy ~ Pro
- 44. Proceedings
- 45. Proceedings ~ Pud
- 46. Q ~ Quar
- 47. Quar ~ Rese
- 48. Reseo ~ Rev
- 49. Rivi ~ Roc
- 50. Rov ~ Sci
- 51. Sci ~ Sco
- 52. Sen ~ Sta
- 53. Stu ~ Tha
- 54. Tha ~ Tra
- 55. Tra ~ Vie
- 56. Vie ~ Wir
- 57. Wir ~
- 58. Z ~ Zeitschrift
- 59. Zeitschrift m ~ w
- 60. Zeitschrift ~ Zoo
- 61. Zoo
- 62. ロシア語





## 資料紹介

## 昭和45年度特別図書購入費による購入図書

前年度にひきつづき、昭和45年度も特別図書購入費の指定配分を受けたが、これによって購入した図書は、次のとおりである。

- 1) Thomas, Aquinas, Saint.
  - a) Divi Thomae Aquinatis. Opera omnia. Rome. Tom. 1-[18] (1570) & Index.
  - b) Sancti Thomae Aquinatis. Opera omnia. Paris. Tom. 1 (1660)-23 (1664).
  - c) ditto. Parmae. Tom. 1 (1852)-25 (1873).
  - d) ditto. Leonis XIII ed. Rome. Tom. 1 (1882)-16 (1948) 78 v. (文学)
 Thomas Aquinas 全集の古版本と新バージョンで、教皇 Pio V 世のもとに編集された“Editio Piana”, 教皇 Pio IX 世のもとで編集された Parma 版、また、教皇 Leo XIII 世発議企画による編集で、通例 Leo 版等である。
- 2) Review of educational research. Vol. 21 (1951)-37 (1967) 17 v. (教育)
 全米教育調査学会の機関誌で、精神衛生・心理テスト・ガイダンス・発達・カリキュラム・学校経営・行財政・成人教育・職業教育・社会教育・国際教育・教育社会学・教育学全般を網羅している。
- 3) Archives parlementaires de 1787 à 1860. Ser. 1: Vol. 32, 34-46, 48-57, 59-60, 65, 67-68, 72. Repr. ed. 30 v. (法学)
 フランス国会議事録で、近代フランス(フランス革命以後)の政治、法律制度に関する研究の基礎資料である。
- 4) Ford time. Vol. 1 (1908)-10 (1916/17) Repr. ed. 10 v. (経済)
 フォード自動車会社発行の、公衆および従業員向け雑誌で、企業分析資料としての価値が高い。
- 5) Educational administration and supervision. Vol. 1 (1915)-15 (1929) 15 v. (教育)
 学校管理・教育行政面における専門職的 administrator の雑誌で、学校管理・経営・教育行政上の問題を広範囲に網羅している。
- 6) Muratori, Lodovico Antonio.:-Rerum italicarum scriptores. Fasc. 1-5, 8-10, 12-116, 120-165. Repr. ed. 135 v. (法学)
 中世イタリア史料集で、バタリアの乱を中心としたミラノ・コムネ史研究、およびゲルマン法・封建法研究一般・13世紀、北・中部イタリア各地で生じた Popolo 運動等の史料が集録されている。
- 7) Irish University Press series of British parliamentary papers. Monetary policy. General Vol. 1-6, 9, 11-12; Commercial distress Vol. 1-3; Decimal coinage Vol. 2; Savings bank Vol. 1. Repr. ed. 14 v. (経済)
 イギリス金融制度の確立、その基礎となった地金論争・通貨論争、その後の貨幣・信用理論を収録したものである。
- 8) Great Britain. Royal Commission on Popular Education. Reports. Vol. 1-6. 1861. Xerography ed. 6 v. (教育)
 イギリス民衆子弟教育の実態報告書で、貧民子弟の教育状況・教員養成・両親の教育態度・視学報告・改革案・慈善基金状況等、公立制度確立以前の初等教育の包括的基礎的資料を集録している。
- 9) American digest system. Century edition, 1658-1896; 1st decennial digest, 1897-1906; 2nd decennial digest, 1907-1916; 3rd decennial digest, 1916-1926; 4th decennial digest, 1926-1936; 5th decennial digest, 1936-1946; 6th decennial digest, 1946-1956; and General digest 3rd series, Vols. 1-20. 270 v. (法学)
 アメリカ全州裁判所の判例総目録である。
- 10) Statistik des deutschen Reichs. (Statistisches Reichsamte) Alte Folge. Bd. 1 (1873)-63 (1883) Repr. ed. 94 v. (経済)
 ドイツ政府統計局が刊行した統計の集大成で、就業構成をはじめ、国民経済の各領域に関する統計等を集録している。
- 11) Great Britain. Royal Commission on Scientific Instruction and the Advancement of Science. 1st-8th reports, 1872-1875, and Minutes of evidence, appendices. Xerography ed. 3 v. (教育)
 科学教育の現状と科学の発展状況に関する調査報告書で、議会や大学その他の関係機関の資金の使用状況や、その効果的使用のための改善策の提案等を集録している。

(中央図書館・整理課受入掛)